

広島サミットでの核兵器廃絶の叫び-目的は実現可能であるべき-

目標が非現実的であると、議論は白熱しない。目的が実現可能であって初めて、いろいろな意見がでてその議論が建設的な方向に進むのだと思う。

広島サミットで叫ばれた「核兵器のない世界」は本当に実現可能だろうか？これを主張している一般人は、今後 20 年で核廃絶が可能であると考えているのだろうか？

日本は被爆国であるので、感情的にはこのスローガンには十分に納得できる。しかし、政治問題として考えた場合に可能であろうか？核兵器をなくすという口実で、どこかの国が処分すべき核兵器をテロ組織にお金のために流すことも考えられる。すべての国が核兵器を手放した後、テロ組織が核兵器を持って他国を脅してきた場合、対抗できるだろうか？特定の国が核兵器廃絶したという言葉で他の核保有国はどれだけ信用できるだろうか？為政者は、可能性が少なくとも最悪の状況を考えて準備しなければならない。

このタイトルでの議論には、核兵器を必要悪と考える人たちは参加できない。

30 年前、当時国会で「核兵器の考慮」との発言をした故中川昭一議員はマスコミから激しいバッシングを受けた。彼は日本は核兵器備えるべきと主張したのではなく、当時タブーであった核装備の是非を議論するべきだといったのであった。

何かを議論する時はいろいろな意見を聞くべきであって、最初からタブーを作るべきではない。私なら、このタイトルを廃絶ではなく将来の廃絶を夢見での「削減」と変更したい。

2023.6.30